



PRO-LIFE NEWS

(中絶に反対する運動)

〒780 高知市新本町一丁目七番三十一号

生まれ来ぬ赤ん坊たち 男の役割

聖書に登場する人物の中で、父親としての正しい責任と役割を果たしている男性は、おそらく主・キリストの育て親であるヨセフでしょう。ヨセフは勇敢にも、実子でない子供を養うことを引き受けました。これは容易なことではありません。神の子の生まれる場所を必死に探し求めているときのヨセフの緊張と不安を想像して見てください。ヨセフは頑張りましたが、結局彼の見つけたのは馬屋でした。それは十分と言える場所ではありませんでしたが、ヨセフは彼のできる限りの準備をしたのです。絶望的な状況の中でもヨセフは自分の責任から逃れようとはしませんでした。

しかも、それ以上にヨセフは主・キリストのために自分の生命までも賭けたのです。2歳以下の男の子を全て抹殺するようにとの王の布告に反抗し、イエスを国からこっそりと連れ出したのです。もしヨセフが捕まっていたら、処罰はより厳しいものになっていたでしょう。またその処罰「たぶん死」はイエスだけにではなく、イエスをかくまったヨセフに対しても下されていたでしょう。ヨセフは主・キリストのために命をかけ、我らの救世主の救い主となりました。このことにより、彼は責任ある父性の模範とされるようになりました。ヨセフは、自分が妊娠させた子供ではないのに、

その責任を引き受けた、ということを忘れないで下さい。もしこの国で中絶の危機を終わらせることに男性たちが真剣に考えているのであれば、我々は直接的な責任を持つだけでなく、それを越える責任をも持つための意志を持たなくてはなりません。そして一括して、この国の男性として、法的に義務を負わなければいけない相手に対してだけでなく、それ以外の相手に対しても犠牲的な支持を与える努力をしなければなりません。我々が良心的な義務感をもてば、それが可能となるでしょう。

(ルカ10:25以降参照)

Issues 6月 1993

中絶

「男」の問題

中絶は父性の二つの役割「守る事と与える事」に失敗した事を意味します。

中絶を受けるのが女性

かるべきなのです。

なので、それは女性の問題であり、男性の問題ではないと世の多くの男性は考えているようです。はたして本当にそうでしょうか。

レイさんは若い女性を妊娠させた時、私の所に相談にきました。「ゲリーさん、ぼくには父親になる準備が出来ているかどうか分からない」と彼は言ったので、「レイ君、君はもう父親なんだよ。後は、君が良い父親になれるかどうかと言う事だけが問題なんだ。君の父親としての役割は自分の子供を守り、そして与える事だよ。君の子供の命が危機に瀕している時だからこそ、その子は今君を一番必要としているんだ。」と私は答えました。それを聞いた彼はすぐに彼女に電話しました。数カ月後、彼の子供が産ま

れました。彼は今、今まで起きた出来事の中で子供が出来た事が一番嬉しい事ですと言っています。女性が中絶を受けないと決心するまでのプロセスから男性がはずされているので、その後の全ての責任を持たなくても良いと、男性は誤解しかねないのです。一方、女性は二人組の片割れとしてではなく、一個人として親になる決心をする事を強いられ、ストレスを感じ、出産がひどく困難なものにみえ、その結果、中絶へと一人病院の門をくぐる場合が多いのです。確かに中絶は「女性の決断」であるかも知れませんが、しかしそれは男性が関わりを持つ事に失敗した結果なのです。たとえ個人的に中絶に関係ないとしても、男性としてある程度の共有すべき責任は否定できないでしょう。アメリカでは毎年ほぼ二百万(日本ではほぼ百五十

万人)の小さな生命がその父親に見捨てられていま

しはしないでしょ。あなたが宿した子どもがおろされたとしましょ。今、あなたに出来る事は先ず、神に許しを請いましょう。あなたが今まで言われてきた事と違って、実際には女性の決意のせいだけではなかったのです。あなたが変える事だつてできたのです。何らかの形で、守る事与える事が不足していたと感じ、自分の責任を受け入れる必要を感じるようになりましょ。

もしあなたが既に父親、祖父である場合、次の世代を守る事で責任を果たせ

ます。中絶が禁止されるように働きかけましょ。立法者と会ったり、手紙を書くなどして、礼儀正しく、しかし堅固にこう尋ねましょ。

「あなた達は何の権利があつて、小さな子どもたちを医者たちに殺させる事を許すような法律をつくるのですか?」と。もし多

く、中絶が禁止されるように働きかけましょ。立法者と会ったり、手紙を書くなどして、礼儀正しく、しかし堅固にこう尋ねましょ。

くの父親達が立ち上がれば、男性達がついに責任を持ち始めてきた事を立法者たちも実感し、「守る」法律が通過する事になるのです。

教会や寺院でリーダー

になりましょう。聖職者に中絶の問題を説くように勧めましょう。中絶に関する研究会を發起しましょう。あなたの住む地域で、人間の生命に対する尊厳を持ち上げましょう。日本生命擁護活動のオフィスで手に入るプロ・ライフニュースへの寄付を募りましょう。あなたの寄付が実用的な援助となり、彼らの活動を維持させる事になるのです。地方の生命擁護団体を発起、あるいは団体に参加しましょう。中絶に反対する意見を述べ、生命擁護の活動家として、解決法を探る一人になりましょう。

祈りましょう。もし何百何千もの男達が過去の罪

への後悔にひざまづき、自分身や社会を変えるために祈った場合の影響を想像して見て下さい。何千もの祈れる男達に太刀打ちできる立法者や法律は一つもないのです。

ゲリー・トーマス

十才の少女より

中絶とは、まだ生まれてこない赤ちゃんを殺してしまうことです。こんなことには、私は絶対反対です。なぜかというところ、一番に赤ちゃんを殺すことだからです。次に赤ちゃんの生きる権利を奪うことだからです。そして最後に、それはむごい、とても嫌なことだからです。

私は、誰であろうと何であろうと殺すということには愚かなことだと思いません。人を殺すことは、法律で禁止されています。でも、人は自分のしていることに気づいていません。殺人をしているのに！私は中絶も法律で禁止するべきだと強く思います。中絶するということは、赤ちゃんの生きる権利を奪うことです。赤ちゃんにも権利があります。よく考

えない女の人で、生まれる前の赤ちゃんは生きていくとはいえないので、赤ちゃんを殺すのは殺人ではないという人がいます。

赤ちゃんの権利を、生きる権利を奪うなんて本当に浅はかな行為だと思いませんか。私は、中絶された赤ちゃんの写真が載っている本を読んだことがあります。とても悲しかったです。残酷なのはその不公平なところです！赤ちゃんに生きるチャンスをおげていないから！

十代やそれ以上の女の人の多くは、赤ちゃんを生むお金がないからとか、子供はいらないからという理由で、中絶しています。私は、子供が欲しいけど養えないような人には、政府がお金を貸してあげればいいと思います。そうすれば、中絶の原因になつていくお金の問題を解決するかもしれませぬ。そして多分、推測だけど、数年後に

は世界中の中絶数が減ると思います。

最後に、私は自分は絶対に中絶をしないことを誓います。そんなことをする人は、殺人罪で死刑になるべきなのです。人を殺しているのですから。中絶は神様と神様の愛に反することだと思いません。

貞潔とは

何でしよう？

婚前交渉に関する八つの事実

事実1 婚前交渉はカップルを壊す事になりがちである。

事実2 処女との結婚を好む男性はいまだに多い。

事実3 婚前交渉のある人々はあまり幸福な結婚をしていない人が多い。

事実4 婚前交渉のある人々は結婚を離婚で終わらせやすいようである。

事実5 婚前交渉を重ねるほど結婚後も不義密通を犯しやすい。

事実6 配偶者をきめる時に婚前交渉だけで決めれば間違いが起こるかもしれない。

事実7 婚前交渉を持つた人は結婚後セックスはやりやすいけれど、結婚するまで待った夫婦に比べて満足度は薄らぐ。

事実8 婚前交渉の習慣は結婚生活での性生活を駄目にする。結婚前に性行為をやましさを恐怖、恥ずかしさと結び付けた人は結婚後も同じくそのように感じるようだ。

英国高等法院、自殺と病人殺害を是認

英国の高等法院は2月

4日、脳に損傷を受けたものの、脳死に至っていない22才の事故の被害者は、餓死してもよいと裁定した。上院はさらに、別の病人の死を正当化するために使用する事のできる3つの概念を是認した。それは次の通りである。

判断の出来る人間は自分が生存するために必要だと分かっている医療を意図的に拒否してもよい。(そして医師もその様な人たちの願望のために便宜を計る事を余儀なくさせられる)

判断の出来る人間は、自分の願望を伝える事が不可能になった場合、医療を拒む事が出来るようにあらかじめ準備をしてもよい。

医師は、ある範疇の機能

不全な患者に対して、生命維持装置や、食物や水分を人工的に投与する等の医療を行わなくてもよい。

判例は、一九八九年のスポーツ競技場での災害で脳に損傷を受け、その時からずっといわゆる植物人間となってしまう男性の周辺に集中している。

その判決の詳細を示す「判決録」によれば、裁判官達は、病人殺害に対する生命尊重派の議論の多くを検討し、拒否したようだ。

裁判官の一人、ゴフ上院議員はその判決を正当化するために、人間の生命の尊厳が「法の原則」である事は認めた。しかし彼は、その原則は絶対的ではないと続けた。医師は患者の

自殺が、その患者の生命が

かかっている治療や管理を停止する事で成し遂げられるならば、それに協力する義務があると法廷は述べた。

矛盾：明らかに矛盾しているのは、ゴフ上院議員が、医師が患者に致死薬を与えて、患者を死なせる事は合法ではないとしている事だ。議員は積極的な行為によって人を殺すのと、生命維持装置を外す事によって、人の死に関係するのとは決定的に違うと考えているようだ。

食物と水分：ゴフ上院議員はさらに人工的に人に食物を与える事が医療の一貫かどうかという問題に関してそうではない事を認めた。するとまた別の問題が起こる。人工的に

投与される食物や水分を止める事は患者を餓死させたと言えるのだろうか。ゴフ上院議員はそれはありえるとしたが、次の二つの動機が揃ったときに正当化できると言った。先ず、患者が何の痛みも感じない事。そして飢えや渴きが表面に現れるのを隠す薬を患者に与えて、患者の世話をしている人が、患者が死ぬのを見て苦しまずにする事だ。

出典：タイムズ誌（英国）

93年2月5日号

水子供養碑

日本を離れる前に、私たちは、東京にあるよく知られた仏教寺を訪れて、中絶によって墮ろされた子供を供養した水子供養碑を見るのができました。以前からこれらの小さな石像のことは聞いていたが、それは母親が、小さな命の灯を吹き消したことを物語っていました。私たちは自分の目を疑いしました。

新しい花が供えられているのもありました。水子の多くは前掛けをしていました。前には風車があるの、風車は子供の霊を楽しませるために置いてあるのだそうです。石像の背中には、短いことばが刻まれています。本堂の近くには、小さな木製の御札が数え切れないほど掛けられていて、そこには両親から亡くなった子供へ宛てられたことばが書かれてありました。それは次のようなものです。

「自分のことだけを考えた中絶をしてしまいました。あなたのこととも考えるべきだったのに。」

「元気ですか？お父さん、お母さんのことを許してちょうだいね。」

「あれからもう2年になるけど、私たちは、あなたのことを忘れないでいるからね。」

「毎月来ますよ。いい子で待っていてね。」

「私たちの子供、ともこへ。もっと、ともこのことを考えるべきだったのに。ともこのことは絶対忘れないからね。」

そのような石像でも、借りるのに一体6〜7万円、年間維持費は7千円かかります。にもかかわらず、ガイドさんの説明によると、この辺りだけでも2万個以上の水子像があるそうです。

隣接して母親をかたどった像がありました。首には、おいごが掛けられています。小さな池からは水が湧き出ています。この水をすくい、像の頭の上に注ぎます。誰も皆、とても慎重で深い真剣な様子でした。ある女性は泣いていました。

日本では、中絶は極めて日常的なもので、最もよく用いられている避妊の方法です。日本人は、無宗教者か仏教徒に分かれると、いつでも過言ではなく、クリスチャンは全体の約1%に過ぎません。今回訪れたのは仏教寺でしたが、どんな宗教を信じていようと、中絶に対して両親が後悔や悲しみを痛切に感じていることは、紛れもない事実です。

過去における避妊の病的ともいえる現象の変遷について、ある程度の知識を持つ一人として、私はこの現象を健全なものであると考えます。女性あるいは夫婦は、自分自身の子供を殺している事実を認めているから、このように健全な方法にはけ口を求めているのです。今回、水子供養碑を訪れたことは私の心に強く残りました。このことは決して忘れないでしょう。

ジョン・C・ウィルキー
医学博士

真実を伝える者

明白な事ですが、真実を知らない人もいるのだということを認識してください。生命を尊重する運動にかかわっていたり、生命の神聖さを深く固く信じていると、しばしば他の人も生命の尊さを自分と同じように信じていると思いがちです。おそらく、こうした人々は女性が自分の子供を殺すことがあるとは想像もできないでしょう。

実際、たいていの女性は自分たちのしていることが子供を殺すことだと信じていません。あるいは中絶をするために、そうした考えを全く閉め出してしまっています。また、望まない妊娠を経験したことがない人々は、中絶のことなど全く考えないでしょう。そういった人は、

中絶という事態に直面しなかつた事を神に感謝するとともに、皆の経験が同じものでない事を認める力が必要です。

現在に至る20年以上もの間、中絶は合法とされてきました。合法で簡単に中絶できるために多くの女性たちがこのごまかしの虜となってきました。中絶したことを後悔している女性たちを対象とした調査によると、大半の女性が、もし中絶が違法であつたらしなかつたであろうと答えています。

中絶が合法とされて、何百万という女性たちがごまかされ、そのかされ、安易で取り返しのつかない対処へと駆り立てられる事になりました。一方、中絶産業はこのごまかしを、生命を守る選択の助けとなる必要な情報を提供しない事によってお金もつけをしてきました。

たいていの女性は、必要

な情報を知った上での同意ではなく、傷ついた心に付け込まれ、彼女の個人的問題から利益を得ようとするものたちによって、中絶の決断を肯定したり、強制されたりするのです。

あなたの生命の神聖さに対する態度と確信は、中絶容認者に対する一つのしるしとなります。それは真実を知らない人々、また真実を知りながらそれに従って行動しない人々への光となります。

神の愛と赦しの力を超える人は誰一人としていません。中絶を行うことに深くかかわっている人々への愛の態度を持ち続けるよう祈ってください。善をもつて悪と戦うのです。自分を迫害するもの、真理を拒むものを愛することは、神からのみ与えられる愛です。

ノボトニー・ジェリー

Omi

